

令和元年度 橋本地区まちづくりを考える懇談会結果報告

- 1 日 時 令和2年1月29日(水)午後7時から午後8時30分まで
- 2 場 所 緑区合同庁舎集団指導室
- 3 市側出席者 本村市長、森副市長、中島緑区長、石井企画財政局理事、
山口広域交流拠点推進部長
樋口市民局長、高梨市民局次長
- 4 出席委員等 28人
- 5 傍聴者 6人
- 6 懇談会の要旨

テーマ1	安心・安全なまちづくりについて
概要	<p>相模原北署前交差点から西橋本5丁目交差点までの橋本大通り線の整備が遅々として進んでいない、今後の整備のスケジュールなどについて伺いたい。また、アリオ周辺の道路では慢性的な渋滞が発生しており、これからリニア新駅の工事が本格的に始まり工事車両が増え、渋滞や交通事故の増加が懸念される。対応について伺いたい。</p> <p>地域としては今後のリニア新駅の開発にあたり、子供から高齢者までが安心して暮らせる住民目線のまちづくりが行われることが重要であると考えている。そのためには、生活道路に自動車が侵入しないような幹線道路の整備や安全な歩道を敷設するといった対応を行い、交通の利便性と歩行者の安全が両立した安全・安心な住みやすいまちづくりを官民が一緒に知恵を絞って進めることが必要だと考える。ついては、交通対策を含めた橋本駅周辺のまちづくりについて、今後の進め方を伺いたい。</p> <p>現在、地域の防犯カメラは、自治会、商店街といった申請団体が各々に設置したものや、店舗や企業が、屋外に向け設置しているものがある。犯罪抑止のためには、これらの防犯カメラの設置状況を把握した上で面的な管理や活用が必要と考えるが、市の把握状況や情報提供の可否などをお伺いし、防犯カメラの効果的な活用について対話をしたい。</p>
市の取組状況等	<p>橋本大通り線の整備スケジュールについて、当該路線は国道16号や橋本駅周辺地区に接続する都市計画道路であり、橋本駅周辺の道路ネットワークの形成や、歩行者などの安全確保などを図るため、整備を進めている。現在、用地取得を進めており、用地取得率は約46%となっている。</p> <p>また、当該路線は、昨年4月に開校した相原高校の生徒が通学するためのルートとなっており、取得済みの拡幅用地部分については、暫定歩道整備や自転車走行空間の確保などの安全対策について検討を行うとともに、引き続き、用地取得交渉を行いながら、橋本駅周辺のまちづくりの動向を踏まえながら道路整備を進めていきたい。</p> <p>工事車両の通行について、リニア中央新幹線神奈川駅(仮称)新設工事は、事業者であるJR東海が、工事箇所周辺の住民を対象に工事説明会を実施した後、昨年11月に起工式を行い、着工した。JR東海は、工事車両の通行に際し、運行間隔やルートの管理、児童生徒の通学時間に合わせた運行時間の調整、交通誘</p>

<p>市の取組 状況等</p>	<p>導員の適切な配置などを行い、歩行者などの安全を確保するとしている。</p> <p>工事の進捗においては、JR東海は、着工後も地域の意見を伺いながら、安全に配慮し工事を進めていくとしている。市としても、工事中の安全対策など、状況を注視しながら、必要に応じてJR東海に適切な対応を求めていく。</p> <p>橋本駅周辺のまちづくりについては、平成28年8月に広域交流拠点整備計画を策定し、整備の基本的な方向性を示した。道路や駅前広場などの都市基盤の配置にかかわる関係機関との協議が整い次第、事業実施に向け、大規模事業評価などの手続きを行いながら、市民説明会や意見募集など市民の皆様の御意見を伺い、その後都市計画決定を行う予定である。</p> <p>先行するリニア中央新幹線の駅部の工事と重なる部分はあるが、JR東海と連携し、令和9年のリニア開業を目指して都市基盤の整備に取り組んでいく。道路などの都市基盤の整備については、広域交流拠点にふさわしい多様な機能の集積が図られるよう、橋本駅周辺のまちづくりに取り組んでいく。</p> <p>また、新たなまちづくりにおいて設置または拡幅をする道路については、歩行者・自転車の安全な通行に寄与する道路づくりに取り組んでまいりたい。</p> <p style="text-align: right;">（都市建設局）</p> <p>防犯カメラは、犯罪発生時の容疑者の特定はもとより、抑止効果として地域防犯において有効であり、地域からも非常に要望が多い。市自治会連合会からの政策要望においても、防犯カメラの補助制度の充実についてご要望いただいているほか、以前橋本地区からも、防犯カメラを活用した地域の安全対策についてご提言をいただいている。</p> <p>市では、平成28年度から、自治会や商店街などが地域防犯を目的として設置する防犯カメラの設置費補助を実施しており、令和元年度までに延べ83団体へ156台分の補助実績がある。防犯カメラ全体の設置の状況について市は把握していないが、市の補助制度を活用したものについては、橋本地区ではこれまでに7団体が申請・設置をしている。</p> <p>防犯カメラは犯罪の抑止効果がある一方、個人のプライバシー保護の観点から適正な運用が求められている。市の補助制度において、制度利用団体は「防犯カメラの設置及び運用に関するガイドライン」に則った運用を行っており、情報の提供に関しても、第三者への提供は原則禁止しているが、犯罪や事故などの捜査の関係においては、情報提供可能と規定しており、個別に警察などから依頼があった場合は、協力をしていると伺っている。</p> <p>橋本地区は犯罪件数が市内の中で多く、昨年1月～12月の市内の犯罪認知件数は3,968件のうち、緑区は964件で、そのうち7割が橋本地区で起きている。犯罪で多いのは、自転車盗、車上狙いや振り込め詐欺などである。</p> <p>市の補助制度においては、地域とともに警察などの防犯の専門家にもご意見を伺った中で効果的な設置場所を選定していただいている。警察においては全てではないが、地域の防犯カメラの設置場所を把握しているというお話も伺っている。周辺の環境や地域性があるため一概には申し上げられないが、地域の防犯活動が活発であると犯罪件数が低い傾向にあるため、カメラの設置と合わせて、防犯活動も重要と考えている。緑区では、安全・安心まちづくり推進協議会において警察も構成団体として防犯に取り組んでいる。市としても、地域の安全・安心</p>
---------------------	--

	をお守りするため、皆様と一緒に考えていきたい。 (市民局)
懇談内容	
地区の発言	補助制度は昨年度90%の補助だったが、今年度は上限27万円となった。自治会も加入率の低下などがあり、負担が多いと防犯カメラを設置したくてもできない自治会もあると思う。補助はできれば100%が良いが、従来の制度に戻してほしい。市としても防犯カメラの補助制度について真剣に考えてもらいたい。
市の発言	補助率は90%で変わっておらず、今年度は上限額を下げたものである。防犯カメラも高性能化しており、同じ予算の中で上限額を下げることで、多くの団体に設置いただけると考えている。これまでの補助額の平均が20数万円となるため、上限額を下げてても一定程度のものが設置できると考え、下げたものである。 補助制度は神奈川県との協調補助で、100%のうち、50%を県、40%を市が負担し、残りの10%を申請団体にご負担いただいている。県の補助制度は令和元年度までが当初期間となっていたが、市としても、地域からの要望が多く、有用性も感じていることから、県に対して補助制度の継続の要望を行った結果、県から方針が示され、3年間の延長となった。市としては、限られた財源の中で多くの地域に防犯カメラの設置ができるように、カメラの性能を踏まえ、制度の見直しを考えている。県は3年間という期限を設定しているが、制度の必要性があるため、引き続き補助制度の継続要望をしていきたい。 (市民局)
地区の発言	地域防犯に対して補助ができるのはありがたいことであるが、地域の防犯力を高めるためには、例えば商店街の店舗先の防犯カメラを少し外側に向けることなども地域の自発的な取組も大切だと思う。しかし、そのような取組をしている店舗に地域防犯に協力していることを明示するシール等を配布し、地域の方が地域防犯に協力している店だから買い物をするといったインセンティブがなければ、地域の自発的な取組を引き出すのは難しいと思う。 また、防犯カメラについて、先ほど全体でどこに設置されているか把握をしていないという話があったが、ちゃんと把握することは重要だと思う。どこに防犯カメラが設置されていて、どこをカバーしているのかが分かると、無駄な防犯カメラの設置にはならないためお願いをしたい。また、防犯カメラを付けても途中でトラブルが起きて撮れていなかった事例が過去にあったため、設置後、定期的な点検をどこが担うか、費用の有無などについて指針などを作ってほしい。 また、プライバシーについては、例えば地域の声を受け、橋本地区を防犯特区エリアなどと定め、地域全体で防犯カメラによる街の防犯に取り組む姿勢が示せるのであれば、プライバシーの問題も若干解消されるのではないかと。
市の発言	地域に防犯カメラの設置推進区域などを設ける話については、各区に安全・安心まちづくり推進協議会という組織があり、各区の特性を活かした運営をしている。地域の皆様のご協力を受けながら行政でそのような取組を行うことによって犯罪の抑止力につながるならば、警察、地域の皆様と安全・安心まちづくり推進協議会の中で協議をさせていただきたい。 (緑区役所)
地区の発言	相原高校の跡地に生徒の自転車置き場が設けられているが、乱雑になっており、外から見ても管理されているような状況ではない。主に生徒が置いていると思うが、管理人もおらず、一般の方も停めている。整理整頓がされている状況ではないので、一度市と学校で相談していただき、きれいにしていただきたい。

	<p>また、道路整備が遅れているというのは分かるが、学校まで自転車で通学をしている生徒がかなりの人数になるため、車との接触が危ない状況である。バスの運行についてもなかなか進んでいないと聞いているが、危険を回避するためにも、道路の整備が進まないのであれば、市として、生徒のバス通学などの検討も含め、少しでも早く危険を取り除いていただきたい。</p>
市の発言	<p>相原高校の生徒を主体とする自転車駐輪場に関して、県から聞き取っている話では、高校の移転に伴い、生徒のために2年間駐輪場を設置していると伺っている。ご指摘があったように、置き方や管理については、本市から県、相原高校へお話をさせていただき、一般の方がもし停めているのならば、本来の主旨と若干違ってくるため、よく今の内容を伝えさせていただく。</p> <p>道路の整備に関しては、用地取得などの交渉をしているところであるが、生徒が自転車で多く通っている現状も事実である。自転車と歩行者を分離するなど、危険を回避する形をとり、安全の確保に努めてまいりたい。また今、拡幅された箇所電柱がいくつか残っており、危ない状況もある。時間がかかり申し訳ないが、移設に向けて事業者と協議を進めている。安全対策をできるところから行い、整備の間に事故などが起きないように対策を市としても取り組んでまいりたい。学生の自転車などの走行に関して、駐輪場の話と合わせて、市からお伝えをさせていただく。 (都市建設局)</p>
地区の発言	<p>防犯カメラについて、例えば台風の際に、道路の状況を把握するために用いるなど、防災という観点からも活用できるのではないかと。</p>
地区の発言	<p>二本松こどもセンターの交差点では、事故が多く発生している。市に、その場所に車止めポールを増設できないかをお願いをしているが、規定では今の状態で大丈夫という答えだった。現状では既存のポール等の間を車が進入できる状況であり、過去の事故の際には建物に車が入ってしまったことがあった。現在、テナントで子どもたちが通う教室が入っているため、即答は難しいとは思いますが安全のため改めてお願いしたい。</p>
市の発言	<p>防災の関係についてお話をさせていただくと、令和元年東日本台風の際の避難場所及び避難方法について様々な課題が出ている。そのため災害対策に関しては現在、様々な視点で検証をさせていただいており、防犯カメラの活用等、今いただいたご意見も踏まえながら、自助・公助・共助という考え方をうまく組み込む形で、これから検証を進めていきたい。 (緑区役所)</p> <p>テーマ1に関して、いただいたご意見及び冒頭での説明を踏まえ、お話をさせていただきたい。橋本駅周辺のまちづくりにおいて2年半の遅れが生じたという点については、平成28年8月に広域交流拠点整備計画を策定したが、それからの2年半は、関係機関と同一のテーブルで話をする場を設けることができていなかった。そのため、2年半なかなか話が進まないまま停滞していた。関係機関と協議を進める場の設定が昨年末に整ってきたため、2年半の遅れをこれからは確実に取り返し、令和9年のリニア新駅の開業に滞りのない形で進めてまいりたい。それまでの間に、橋本大通り線の拡幅整備については、用地取得や安全対策も含め、進めていく。</p> <p>防犯カメラについては、県の制度も3年延長された。皆様と一緒にこの橋本地区を良くしていくために頑張っていくので、よろしく願いたい。 (副市長)</p>

テーマ2	地区まちづくり会議の位置づけについて
概要	<p>市におけるまちづくり会議の位置づけを伺いたい。まちづくり会議の設置により、あいさつ運動など地域において様々な活動を生み出したほか、市から依頼を受けて、様々なことについてまちづくり会議で協議しお答えしてきた。地域活性化事業交付金の意見聴取などについてもまちづくり会議の中で議論させていただいており、非常に重要な会議であると考えているが、まずその位置づけが現状どのようなになっているのか教えていただきたい。</p>
市の取組状況等	<p>まちづくり会議については、まちづくりの課題を主体的に話し合っていたき、課題解決に向けて団体が協働して取り組むための地域主体の会議体と考えており、平成22年に政令指定都市に移行し区制を敷いた際に、新たな市民協働によるまちづくりの仕組みとして設置したものである。その役割としては、主体的に地域の課題解決の話し合いを行うことと、課題解決に向けた活動につなげることと考えている。具体的には、地域におけるまちづくりの課題整理や取組の方向性の検討、地域の歴史や人材などの地域資源を把握、活用、発掘し魅力づくりを進めること、地域情報を共有、把握、発信すること、地域内における団体の連携強化、連携協力などが役割と考えている。</p> <p>こうした地域の話し合いの場であり活動の主体であることから、導入にあたっては、まちづくり会議の構成メンバー、運営方法、互いの関わり方などについても、まずはまちづくり会議を中心に、各地区内の団体の主体的な話し合いで決めていただいたと承知している。地域の課題解決、魅力づくりなど、地域コミュニティを形成していく上での地域における重要な組織として認識している。</p> <p style="text-align: right;">(市民局)</p>
懇談内容	
地区の発言	<p>我々はその趣旨に賛同してこの場に出ているが、本業もあり地域活動も行うのはとても忙しい。防犯カメラの話の際に、安全・安心まちづくり推進協議会でと回答があったが、協議会にも橋本地区の方が出席している。地域の声はどこで認識しているのかということ伺いたい。このまちづくり会議の声が地域の最も強い声である、と行政と地域で共通認識を持てればよい。例えば自治会長や商店街会長として市役所へ相談に行くと、街の声がそうであれば動きますと、街の代表として相談しているのに、そのような回答をされる。では街の声はこの声なのかと伺うと、地域住民の声ですと堂々巡りに陥り、街の声のぶつけ先が分からない。まちづくり会議から上がってきたならば街の声として受けるということであれば非常に分かりやすく、地域としても議論がしやすい。さらに、地域活動に参加していない方が、例えば自治会に入って自治会からまちづくり会議に意見を出せば市はちゃんと動いてくれると認識してもらい地域活動に参加してもらったやり方が正しいやり方だと思う。</p> <p>また、本業もあり地域活動も行うのはとても忙しいとお伝えしたが、市にはリニアまちづくりの会やまちづくり会議、魅力づくり会議など担当部署ごとの会議があるが、逆に、まちづくり会議に部署の方が来て説明し、意見を聴取する合理的なやり方を橋本地区からモデルケースとして検討できないか。</p>

市の発言	<p>地域の中でどこの意見を一番強く聞いたらよいかという話があったが、これはなかなか難しい問題であり、例えば、ある組織の意見が一番強いとなると、そこから漏れた方々の意見はどうなるかということになる。今の市全体の考え方としては、基本的には、市民の皆様と対話をしながら、数多くの方と接して、一人でも多くの方の意見を聞かせていただき、最終的に市政に反映させていく、ということの基本としている。確かに様々な団体があり、数多くの方が複数の構成メンバーになられているのは承知しているが、全部が全員一緒という訳ではない。市としては、市民の皆様の声は出来る限り広く拾うのが基本的なスタンスであることをご理解いただきたい。ただ、会議の持ち方の効率化は確かにできるので、よく検討させていただきたい。 (緑区役所)</p>
地区の発言	<p>おそらく数多くの方と接して一人でも多くの方の意見を聞かせていただき最終的に市政に反映させていく方法は、市長が変わる変わらないに関係なく、これまでずっと行ってきたことであると思うが、それで地域の団体は疲れている。会議の持ち方の効率化等しっかりやっていただきたい。</p> <p>また、自治会や商店街は良い社会資本として認知されていて、残さなければいけない団体であると思ってもらえていると思うが、誰からも声を聞こうという姿勢では、正直、そのような団体が残っていけない。社会資本となる団体に対し例えば、災害時など地域ががんばらなければならない部分について補助金を出すとかが、役割と権限をちゃんと認めていくというように育成の観点も持っていただかないと、今後、成り立っていかないと思う。地域の取組には、地域防犯、地域防災など様々のことを行っているが、消防団もPTAも成り手がいない、商店街にも加入者がいないということでは、地域は良くならない。今回提案させていただいたような観点で、市全体ではなくまず橋本地区から取り組んでみてはどうか。やってみてダメならばやめてもよいと思う。まずはチャレンジができればよい。</p>
地区の発言	<p>先週、橋本地区の自治会長会議があった。自治会長皆が忙しい合間に時間を割いて参加してる会議である。その際に、オリンピックのロードレースの説明のため市の職員が来られた。自身の自治会がコースに接しており関心事であったが、行われたのは概要の説明のみで、前回は行われたテスト大会の内容や駐車場の確保などの課題、自治会長としては何をしなければいけないのか等の説明や意見聴取はなかった。現在の市の説明は、市の決めた政策を地域が一方的に聞かされていると感じる。地域には様々な人間がおり、どういう段階を踏むかなど難しい課題はあるとは思いますが、地域の意見を効率良くどう吸い上げるのかを市としてもぜひ考えていただきたい。</p>
市の発言	<p>様々な事業を行う時市から情報提供をすることが多々あるが、市民の側に立って何を情報として欲しいのかという視点が欠如していると感じる。市民の皆様は忙しい中時間を削って、様々な場に出向いていただいているが、その場で同じような話を繰り返されることもあると認識している。市全体で変えることは難しいと思うが、今の提言を受け、まずはこのまちづくり会議など橋本地区の中でご相談をさせていただきご意見を伺いながら、皆様の総意の方向へ少しずつでも持っていけるようにさせていただきたい。 (緑区役所)</p>
地区の発言	<p>相原高校と協同病院の移転に伴う道路整備については、周辺の状況を見てという回答は昨年もあった。その関連で、市は相原高校と協同病院の間を都市計画道</p>

	<p>路として整備すると地元の説明をしているにもかかわらず、今現在通行できない。そのため、周辺の4自治会長で県へ要望書を出した結果、市と協議が整えば使用可能との回答をいただいている。協同病院に対しても、周辺の自治会は道路の予定地を通してほしいと要望をしている。市にお願いするだけでなく地域からも県や病院などの関係団体に働きかけ、実現に向かうことは市と地域の協働と考えている。しかし、市の状況や考えが分からない状況である。問題点があれば、まちづくり会議などで問題解決に向けて、地域として検討したいと思っている。我々が活動をする上で必要な情報を市から出していただければ課題の検討ができる。地域にも課題を投げかけていただき、地域で協力できることがあれば協力する形で、事業を進めていただきたい。</p>
<p>地区の発言</p>	<p>昨年のもちづくり懇談会で商店街の活性化や地域の利便性から、協同病院と相原高校の移転に伴い、国道の二本松交差点から二本松こどもセンター交差点の間をバス通りにしてほしいと、要望をさせていただいた。その後、商店街の会合に市の担当者が来ていただき話をしたが、その後は、神奈川中央交通と話していただいたのか、あるいは地域に何か問題があるのか、別の計画があるのか、一切話がない。商店街としては大きな活性化になるため、改めてご説明や検討をお願いしたい。</p> <p>また、市に対する要望の話ばかりでは失礼なのでお伝えしたい。防犯カメラの補助制度については、過去、相模原市には補助制度がなかったが、橋本地区のもちづくり会議や懇談会の中で提言し、市に承えていただき今の制度につながっている経過がある。参加者の皆様にもご承知おきいただきたい。</p>
<p>市の発言</p>	<p>様々な行政課題、市民の皆様の課題、懸念事項などをうまくすくい上げて、タイムリーに答えてほしいという趣旨だと思うが、基本的にその役割を一義的に担っているのは区役所やまちづくりセンターである。今いただいたご意見を早急に検討させていただき、まずは例えば橋本地区から始めることも検討させていただきたい。区が中心に行うが、課題によって担当セクションが入るなど、行政に対する様々なお考えをお聞かせ願う場を設けながら進めていきたい。(緑区役所)</p> <p>相原高校と協同病院の間の道路の通行、または、二本松商店街のバスの運行に関しては、地域から要望も出ている。関係機関との協議を行っている状況もあるので、課題や協議の状況などについて、要望いただいた方々にフィードバックという形でお戻しできるように、考えてまいりたい。担当課の方にも伝え、お伺いさせていただきたい。(都市建設局)</p>
<p>地区の発言</p>	<p>本日の議論はかなり活発になった。地域が様々な課題を持つ中で、住みよいまちづくりを行うために、行政と地域が役割と責任を認識した上で、協働して行うことが重要だと思う。本日の懇談会は、市からは様々な回答をいただいた。この回答を今後の橋本地区のもちづくりに活かしていきたい。また、まちづくり会議の中で、この方向性をもっと強力なものにしたいと思っている。我々まちづくり会議の委員もがんばるので、市にも協力をお願いしたい。知恵を絞りながら、課題解決に共に取り組んでいきたい。</p> <p>会議の効率化について、提言を出すとその会議はお終いで、その続きが見えないこともある。地元の意見を取りまとめるだけで、その後の結果が分からないような会議はやめていただきたい。様々な方の意見を聞くということで、まちづく</p>

り会議が一部の声であれば、まちづくり会議以外に、どういう形でその声を吸い上げ、どのように市政に反映するのか、ちゃんとその仕組みを市で作っていただくことで、まちづくり会議がよりよいものになるし橋本地区もよりよくなると思う。

2020東京オリンピック・パラリンピック競技大会に関連し、橋本地区で聖火リレーが行われることは非常によいことだが、聖火リレーについては、県や協賛企業で進めており地域でできることはもうほとんどないと聞いている。自転車ロードレースも、橋本地区を通るため地域の自治会や住民も応援をしたいと考えている。前回のテスト大会にも多くの人が集まったので、本番はもっと人が集まると思う。地域も大会が成功するよう応援しているので、市も地域に対する説明や地域との協働等の対応を考えていただきたい。

市長の感想等

これまでまちづくり懇談会は副市長を先頭に行ってきたが、今年度は実施した全地区で、市長、副市長、局長、部長、担当課が出席をする中で、対話をしてきた。今日、様々な課題をいただいたが、これからも、皆様と対話をしっかりしながら、方向づけをしてまいりたい。

防犯カメラに関しては、相模原市の3つの大きな要望のうちの一つとして、昨年、神奈川県知事に要望をさせていただいた。県は当初難色を示したが、県内から多くの要望が重なったため、3年間の延長が決まった。90%の補助率は変わらないが、今後、上限を含めて県と協議したいと思う。

県議会議員時代にイギリスに行ったが、イギリスは防犯カメラ世界一の街であった。また、防犯カメラとともに、民間の警察官がいて、更に地域では "neighborhood watch" といって、例えば見たことがない人が入ってきたら、あえてあいさつで声をかける取組を行っていた。犯罪をしようとする人は、声をかけられたことにより顔がばれてしまったので去っていくというものである。イギリスは "face to face" の声かけで、防犯カメラとともに、地域の安全・安心を "neighborhood watch" という運動で作ってきた。本日は、自治会をはじめ、公民館や商店街、地域でご活躍の皆様にお越しいただいており、声かけも重要だと思うのでぜひお願いをしたい。防犯カメラの設置場所については、当然市が把握しなければならないため、しっかり対応してまいりたい。

相原高校の跡地の自転車置き場については、本来は2年間生徒が使う自転車置き場である。相模原市は、県内でも自転車の事故が多い地域であり、12月議会において市議会からも高校生の安全運転に関してご意見をいただいているので、県の教育委員会、相原高校と話をし、マナーアップを含めて徹底していきたい。

防災という観点も非常に大事で、相模原市は首都直下型地震や南海トラフ地震が30年間に70%の可能性で発生すると言われている地域である。地盤が固いと言われているが、そこに防犯カメラの取組を絡めていくことは重要である。令和元年東日本台風の際に緊急放流があったが、県に対しては今回の緊急放流の際の情報の遅れについて改善を求めた。今回、県が新たに相模川に5台の監視カメラを付けることになった。カメラが防災と関連することも理解できるので、この点もしっかり取り組んでまいりたい。

車止めポールの件は初めてお聞きしたが、先般、向原の交差点の現地視察にも行

ったので、また近い時期に伺わせていただきたい。

まちづくり会議の位置づけに関しては、貴重なご意見をいただいた。地元の意見を吸い上げるには、市議会議員や地区自治会連合会長など様々な場合があると思う。今後、庁内分権として、将来的に、各区役所に権限・財源を移管していきたいと考えている。また、大事な話は、市に対して言っていたきたい。市が持っている課題を、自治会をはじめとした皆様にも共有していただき、一緒になって考えていただき、地域がよくなるように解決策を考えていきたい。

自転車ロードレース大会に関しては、駐車場などのご迷惑をおかけした。市が受けた話を市民の皆様にしかりお返することは重要で、できるできないということもあるが、今の状態を皆様にきちんと話さなければいけない。長期財政収支の仮試算をしたところ、相模原市は非常に財政が悪く、令和2年から9年までの8年間で、768億円の歳出超過が見込まれる。今まではなんとなく帳尻合わせを行ってきたが、それではいけない。少なくとも市民の皆様、議会には、事実をお話したい。2月1日と2月15日号の広報さがみはらにも掲載されるが、現在、(仮称)行財政構造改革プランの策定を検討しており、市民の皆様にも様々な案をいただきたい。何もやらないという訳ではなくて、やはり将来に対して夢を持たなければならないため、縮減できるところを行っていく。令和2年度から4年度まではかなり厳しい財政になるが、先送りせず、今やらなければならない。よく周りから、就任1年目ではなく、今後行えばよいのではないかとと言われるが、分かったらその場で位置づけや方向性を決めていかなければ、どんどん火だるまになってしまうため、行財政構造改革という厳しい選択をあえて選んでやろうと思う。もしまた機会をいただければ、皆様に行財政の中身についてお話をさせていただき、一緒になって相模原市を選ばれるまちにしていきたいと考えている。

相原高校と協同病院の間の道路について、4自治会でご尽力いただいて県へ要望された件については、しっかり対応をして返答をしなければならないと思う。道路整備において、周辺状況を見て検討する、整備をするという回答はありふれたもので、今までは少し買収して顔を伺うということを行ってきたが、これでは道路はできない。市長就任後には、必要な道路に財源を付けるため、選択と集中で取り組んでおり、必要な道路には集中投下して作っていかなければならないと思う。

二本松商店街のバスの話については、2月に担当課が神奈川中央交通と話をする機会がある。神奈川中央交通からは、橋本駅から相原高校・協同病院まで連節バスを走らせたいという話もあり、現在、導入の検討を行っている。皆様からいただいたご意見について、できるできないはあるが、ちゃんとお返すことを徹底してまいりたい。また、皆様が感じたこととお話いただく機会としては、まちづくり懇談会も年に1回ではなかなか話もまとまらないので、また機会があれば行政として参加をさせていただきたい。今日は皆様から貴重なご意見のほか、反省をしなければならない点をたくさんいただいた。襟を正してしっかり行っていきたいと思う。

(市長)